

甲南法務研究

No.20 2023.10

- 本法科大学院の活動報告 石井 昇
 差止訴訟（行訴法3条7項）と義務不存在確認訴訟
 —— 最判令和元年7月22日を参考にして —— 石井 昇
 SNSの著作権 板倉 集一
 実務家から見た法教育に関する論説 黒根 祥行
 シュニツアアの連結理論（その二） 櫻田 嘉章
 消費者契約法10条による差止訴訟の実務と展望 鈴木 尉久
 薬物戦争の終わり
 —— 人びとはなぜかくも懸命に戦ってきたのだろうか —— 園田 寿
 定義づけ比較衡量と比例性に関する試論 高橋 靖
 租税訴訟における司法判断と専門家の責務 丸山 晃弘
 訴訟上の反対相殺の再抗弁について 宮川 聡
 [判例評釈] 明示の一部訴求がなされ訴訟が係属しているときに、残額債権の支
 払いを求める別訴を提起することは民事訴訟法142条の類推適用により許され
 ないとされた事例
 損害賠償等請求事件 東京地方裁判所平成30年(ワ)第34702号
 令和3年4月20日民事第26部判決 宮川 聡
 [研究ノート] BitTorrent による著作権侵害についての残課題
 —— 原告が立証責任を負うべき具体的事実についての検討 —— 伊藤 英明
 [研究資料] 刑事手続における視覚障害者の権利保障
 第1部 刑事手続と視覚障害 —— 問題の提起 —— 渡辺 顕修
 第2部 視覚障害を有する弁護士のインタビューに学ぶ —— 渡辺 顕修、山崎 茜
 第3部 視覚障害者の権利保障のために —— 多角的な検討 ——
板原 愛、堀田 零生、山田 直子

甲南大学法科大学院